

# おおくま

福島県大熊町  
議会だより

2022 No.61  
令和4年  
5月1日発行

題 字：<sup>いずみさわ</sup>泉沢 <sup>ま ゆ</sup>真佑さん(大川原)



『学び舎 ゆめの森』開校（旧河東第三小学校）

3月  
定例会



スマートフォン  
でも見られます

令和4年度一般会計当初予算概要…………… ③

重点事業クローズアップ…………… ④

復興への課題をとらえて 町政一般質問… ⑧

3.11のつどい実行有志の会 …………… ⑩

# 令和4年第1回定例会 40議案を可決

## 定例会のあらまし

令和4年第1回定例会は3月7日から18日までの12日間の日程で開催されました。

第1日目に町長から復興へ向けた施政方針が示されました。そのほか条例の一部改正、工事請負契約の変更、財産の処分、固定資産評価審査委員会委員、教育委員会教育長人事案件、令和3年度一般会計および特別会計補正予算、令和4年度一般会計および特別会計当初予算など38議案が提案されました。

第2日目は5人が一般質問を行い、「災害等に備えた防災訓練をしようか」「グリーンインフラを取り入れた街並みに」「避難指示解除になる区域への生活循環バス運行について」「町内施設整備について」「中間貯蔵施設建設にご協力いただいた町民へ住宅地を提供すべき」などを取り上げ町政をただしました。

第11日目の本会議では条例の一部改正、工事請負契約の変更、財産の処分、固定資産評価審査委員会委員、教育委員会教育長人事案件、令和3年度一般会計および特別会計補正予算など26議案を審議し、25議案を原案通り可決しました。また追加で提出された請願書を全会一致で採択しました。

最終日の本会議では令和4年度一般会計および特別会計当初予算など全15議案と請願書の意見書提出を併せて審議し、全議案とも原案通り可決し閉会しました。

なお、今回の傍聴者は延べ23人でした。



## 町づくりの新たなステージへ

未来へ進化していく駅西口エリア

### 復興に向けて大きな一歩となる一年

#### 町長施政方針の要旨

令和4年度一般会計の総額を249億7千万円と定め、避難生活や復旧・復興を加速させるための予算編成となりました。

#### 復旧・復興

- ・特定復興再生拠点区域の解除および政府より示された拠点区域外の取り扱いを基に、今後の町の復興を加速させるため第三次復興計画を策定する。
- ・二つの企業誘致エリアの整備を進める（大川原に整備中の西工業団地と双葉翔陽高校南側の中央産業拠点）
- ・新教育施設の着工に伴い、子育て世帯用の再生賃貸住宅の整備を進める。

#### ゼロカーボン

- ・町ゼロカーボン推進補助金（住宅や事務所の新築・改修、自家用車、社用車購入など）

### 大熊るるん電力株式会社

の電力小売り事業開始。

- ・交流ゾーン・公営住宅に太陽光パネルを設置。

- ・町内交通分野ではゼロカーボン化に向け、EVカーシェアリング事業を実施。

#### 生活支援

- ・避難指示解除に伴い生活支援バスの増便やバス停の増設で生活しやすい環境を整備する。
- ・年末の生活応援物資の配布を継続。
- ・コロナ感染拡大のため日常生活に苦労している町民へお米等を配布。

#### 特定復興再生拠点区域

- ・大野駅を中心とした下野上地区に産業交流施設や商業施設、住宅団地、産業団地の整備を進める。

# 令和4年度 予算決まる

## 一般会計総額249億7000万円

新年度予算は、特定復興再生拠点区域の避難指示解除をメインにゼロカーボン推進事業、下野上地区復興拠点整備、帰還、居住環境の整備、新たな義務教育学校の校舎建設などを柱とした、大熊町再生に向けた249億7000万円の予算となりました。主な内訳を報告します。

### 歳入(収入) 合計：249億7000万円

予算科目	予算額	内 訳
町税	52億3455万円	町民税や固定資産税、軽自動車税などの税金
地方交付税	30億0000万円	復興を進めるため国から交付される税金
国支出金	39億2492万円	事業により国から支出される補助金や負担金
県支出金	28億1433万円	事業により福島県から支出される補助金や負担金
基金繰入金	93億9496万円	町の基金から一般会計へ繰り入れる費用
その他税・交付金	3億5765万円	地方消費税交付金や地方譲与税などの税金
その他収入	2億4359万円	使用料、手数料や財産収入などの収入

### 歳出(支出) 合計：249億7000万円

予算科目	予算額	内 訳
総務費	73億2780万円	庁舎、交流施設管理、防犯対策、ゼロカーボンなどの費用
民生費	14億8786万円	健康、福祉、介護など町民の福祉向上の費用
衛生費	5億7395万円	診療所運営、予防接種、検診、ごみ処理などの費用
農林水産業費	15億9955万円	営農再開、農地、農道、林道維持などの費用
商工費	5億2851万円	復興拠点内商業施設管理や商工観光の費用
土木費	63億1649万円	町道の新設、維持工事、復興拠点整備などの費用
消防費	5億2882万円	消防、防災、災害対策などの費用
教育費	36億7141万円	町立幼小中学校建設、運営、文化財保護などの費用
諸支出金	26億2874万円	一般会計から特別会計へ繰り出す費用
その他支出	3億687万円	議会費、災害復旧費、予備費などの支出

### 特別会計 合計：64億6730万円

事業	予算額	事業	予算額
坂下ダム施設管理	6050万円	工業団地造成	16億1010万円
国民健康保険	20億319万円	中央台霊園管理	16万円
奨学金貸与	1790万円	介護保険・サービス事業	11億6718万円
特定環境保全公共下水道	9億3102万円	後期高齢者医療	2773万円
農業集落排水	6億4064万円	やすらぎ霊園	887万円
住宅団地造成	1万円		

(万円未満四捨五入)

# 令和4年度 重点事業クローズアップ

## スマートコミュニティ 整備事業



8億  
4430  
万円

太陽光発電所(大熊中跡地)の電気を下野上地区に供給するシステムを構築します。町内の再生エネルギー活用とともに、災害に強いまちづくりを目指します。

## 新教育施設整備



27億  
2300  
万円

令和5年春に大川原地区に開校する「学び舎ゆめの森」の建設の槌音が響いています。

## 行政区絆維持 補助金

7852  
万円

町内21行政区の町民の交流などを図っていくために活用します。

## 通学路整備 4000 万円



3億  
3032  
万円

## 再生賃貸住宅 整備促進事業

新教育施設の開校に伴い、通学児童や生徒たちが安心して通えるよう歩道を設置するなど安全対策を図ります。  
また開校に向けて、新たに子育て世帯用の再生賃貸住宅を整備します。

## 無縁仏墓設置

199  
万円



町が管理する公営墓地やすらぎ霊園内に1基設けます。

(万円未満四捨五入)

# 町内診療所 診察日の追加を調整

第1回定例会にて令和4年度当初予算の審議を行いました。  
その中から主な質疑内容を報告します。

## 診療所

**問** 診察日を追加調整中であるとのことだが何曜日を想定しているのか。また診療科は何科なのか。

**答** 現在双葉医療センターと調整中である。可能であれば木曜日を考えている。なお、診療科は今までと同じく内科を予定している。

## 老人緊急通報システム

**問** システムは自宅に設置することになるのか。また、希望者は誰でも申し込めるのか。

**答** システムは自宅に設置する事を想定しており、対象者は65歳以上の方と考えている。万が一の際には自宅まで駆けつける。企業

はインターネットやアルソックを考えている。設置には別途申請が必要となる。



緊急通報に備えて

## 見回り隊

**問** 今後見回り隊は帰還困難区域パトロール業務の1本化とあるがどのようなことなのか。

**答** 避難指示解除を受けて防災に関するパトロールを強化するため統合して対応することである。

## 通学路整備

**問** 安全に通学できるよう歩道やガードレールを整備すべきではないか。

**答** 子ども達の通学路となる歩道にはガードパイプ等設置し安全を確保できるよう進めて行く。

## WiFi

**問** 電車利用の際に駅周辺は人が無く不安との声も聞こえる。大野駅周辺は、電車発着の時間に合わせてパトロールしてはどうか。

**答** 警察と連携しながら対応できるか検討する。

## ゼロカーボン

**問** 教育施設建設工事に伴って大型車両の往来も増えてきている。周辺の道路には止まれる標識も無く優先道路が分かりにくい。事故が起きる前に標識を設置してはどうか。

**答** 現場を確認し対策を検討していく。

## WiFi

**問** インキュベーションセンターのWiFi通信は8回線で高速通信が可能になるとのことだが将来の駅前開発や病院等を見越しての考えはないのか。

**答** インキュベーションセンターの他の通信は少し弱いと認識している。第三次復興計画では高速通信の件も見込んで計画していく。

## 固定資産航空写真

**問** 撮影するエリアは町内全域なのか。また撮影は毎年実施しているのか。

**答** 評価額見直しのため、撮影範囲は町内全域である。また、撮影は3年ごとに実施している。

## 坂下ダム

**問** ダム湖の堆砂を調査することのだが、調査は一部なのかダム全体なのか。

**答** ダムへの流入分も含めてダム湖全体を調査していく。

## ゼロカーボン

**問** ゼロカーボン推進事業のメリットや効果が見えてこない。事業を進めるうえで町民へはどのようなメリットがあるのか。

**答** 事業の報告は年一回実施していくことになっている。その中でメリットや効果等についてもしっかり住民へ説明していく。

# 学び舎 ゆめの森建設費 5億8412万円減額

第1回定例会にて令和3年度一般会計補正予算の審議を行いました。その中から主な内容をお知らせします。

## 新教育施設建設工事費

**5億8412万円減額**

新教育施設「学び舎 ゆめの森」の建設工事契約に伴い請負金額が確定したため減額するものです。

## いちご栽培施設太陽光システム整備費

**809万円減額**

太陽光発電と蓄電池を組み合わせた再生可能エネルギー設備を導入し、施設の消費電力約30%削減を目指す事業です。停電時には非常用電源として活用します。設備導入契約の金額が確定したため減額するものです。

## 津波被災者住宅再建支援金

**3870万円減額**

東日本大震災の津波により家屋が全壊失または半壊以上の被害を受けた家屋所有者へ、町内外において住宅再建等に要する費用の一部を補助する事業です。今年度は申請者がいないため減額するものです。

第1回定例会にて条例制定一部改正の審査を行いました。主な内容をお知らせします。

## 町民税の減免条例

避難生活が継続していることから原子力災害対策特別措置法に基づき、町民税減免の他、固定資産税、軽自動車税および国民健康保険税なども減免措置となります。

平成31年・令和元年の合計所得金額	減免割合	該当者割合
300万円以下	全額	59.09%
300万円を超え400万円以下	10分の9	12.95%
400万円を超え500万円以下	10分の7.5	9.52%
500万円を超え750万円以下	10分の5	11.99%
750万円を超え1000万円以下	10分の2.5	3.26%
1000万円超	10分の1	3.18%

副町長に  
新保隆志氏を新任

全会一致で同意されました。



【出身】  
福島市  
【任期】  
令和4年4月1日～

大熊町固定資産評価  
審査委員会委員に  
福尾絹子さんを再任

全会一致で同意されました。



【住所】  
大熊町大字野上  
【任期】  
令和4年3月20日～

大熊町教育委員会  
教育長

大熊町教育委員会教育長の再任人事案件が提案されましたが、賛成少数で否決されました。

# 線量が高い箇所は フォローアップ除染で対応

第1回定例会にて令和3年度補正予算の審議を行いました。  
その中から主な質疑内容を報告します。

## 敷地内および屋内 環境調査委託料

**問** 避難指示解除区域内のフォローアップ除染実施件数は何件か。また町民の問い合わせで実施しているのか。

**答** 除染件数は屋内8件、屋外51件を実施した。線量調査は町が実施し除染が必要と思われる地権者へは町担当者より連絡してフォローアップ除染を申請するよう進言している。

## 診療所運営費

**問** 診療所運営費のうちバス運行委託とはどのようなものか。

**答** 薬局がある榎葉町まで本人が薬を受け取りに行くためのタクシー利用補助である。

## 防犯カメラ

**問** 家庭用防犯カメラの設置補助は一世帯1台なのか、数台設置でもいいのか。

**答** 補助は一世帯1回であり複数台設置も可能だが上限は5万円までとなっている。

## 防犯灯

**問** 防犯灯の交換および設置状況はどのようになっているのか。

**答** 新たに設置した箇所はない。交換実績は498台であり、その内の約9割がLED化している。

## 消防設備

**問** 消火用ホース購入とは現在ある全てのホースを点検し購入が必要だと判断した数だけ購入する予定だったのか。

**答** 点検対象は全ての消火栓を対象としており、補修できるホースは補修するが、交換が必要と判断したホースのみ購入予定であった。

## 在宅老人紙おむつ 給付費

**問** この事業はどのような方が対象になるのか。

**答** 町に住所を有するおおむね65歳以上で、要介護状態区分が介護3以上の認定を受け常時介護用品を必要とする在宅高齢者へ給付している。

福島県最低賃金の引き上げと早期発効を求める請願書の審査を行いました。

**福島県は全国28位で  
時給828円  
最低賃金引き上げを**

### 請願書の主な内容

- ① 毎年年率3%程度を目途に引き上げを図り早期に全国平均1000円を目指す
- ② 諮問時期は可能な限り早期発効を求める

### 請願者

日本労働組合総連合会 福島県連合会  
双葉地区連合会 議長 鯨岡圭介

### 住所

福島県双葉郡大熊町大字夫沢字北原22

### 紹介議員

阿部 光國

### 付託委員会

産業厚生常任委員会

### 処理経過

全会一致で採択、意見書提出

### 提出先

内閣総理大臣	岸田 文雄
厚生労働大臣	後藤 茂之
福島労働局長	河西 直人

石井 和弘 議員



## 問 住民と一緒に実施してはどうか

## 答 できる限り参加を促し実施していく

防災訓練

# 町政を問う 復興への課題をとらえて

**石井** 大熊町は現在大川原地区を中心に帰町している方々が多く生活しているが、今後万が一、大規模災害等が発生した場合、住民の方々は混乱なく避難行動をとれるのか懸念している。

役場には防災棟も整備されており、万が一に備え水や食料等の準備は整っており、個別機能班毎の訓練も実施していると思われる。しかしながら、個々の準備や周知だけでは万全と言えないのではないか。住民と一緒に防災訓練を実施することで、実際の避難動線や避難手段、避難状況や避難後それぞれの改善点、個別訓練では見えないリスクも見えてくるのではないかと。また、昨年秋季に完成したリンクる大熊、ほっと大熊各施設も災害時に利用できるのか等それらの課題も防災訓練で見つけ改善していく事が命を守る行動に繋がっていくのではないかと。

以上のことから、住民の防災意識高揚のためにも町独自の防災訓練を計画し、年1回の頻度でも実施してみたいかと。町長の考えを伺う。

**町長** 災害発生を想定した防災訓練の実施については、町としても

重要なことであると認識している。台風等の自然災害を想定した防災訓練については、町独自の実施に向け、頻度も含めて検討していく。

なお、現在の取組み状況としては、災害発生時における災害対応要員の訓練が重要となっており、町では平成29年度より職員の災害対応訓練として、災害対応シミュレーション訓練を実施している。この訓練は各課から数名参加し、年

1回実施しているが、参加人数に限られることから、来年度は2回に増やしたうえで、全職員を対象に災害時の初動体制を再確認する防災研修を本庁舎及び各出張所等で実施する計画である。これにより職員の災害対応能力の向上を図っていく。なお、昨年完成した「リンクる大熊」「ほっと大熊」については、今後災害時の一時的な避難所として位置づけ

現在建設が進められている町立学校「学び舎ゆめの森」については、指定避難所に位置する方向で検討を進めている。

### 再質問

**石井** 住民の参加がやはり重要ではないかと考える。職員と住民の防災意識高揚と危機感を向上するためにも可能な限り住民の参加を呼びかけ、全体的な訓練を計画して進めてはどうか。

**町長** 当然避難訓練は、避難する方、そしてそれを受け入れる方その両方がある。避難訓練だと思ってる。できる限り住民の方に参加を促して実施していく。



訓練には住民参加も呼びかけて



西山 英壽 議員



## 問 グリーンインフラを取り入れた街並みに

## 答 導入を積極的に検討していく

**西山** 町はゼロカーボン宣言から2年が経過するが、来町し宣言をした町であることを感じるにはまだ時間を要すると思う。

これから町内にソーラーパネルが増えると思うが、宣言をした自治体の推進事業として様々な角度からの取り組みが必要ではないかと思う。

ゼロカーボン推進を発信する役場庁舎に太陽光システムが設置されたが、周辺がまだ復興中であり、取り組み発信に向けた整備が可能であると考ええる。

震災後、手つかずである町の森林は整備に時間を要すると思われることから、目標達成には新たな森林吸収源が必要であると考ええる。

そこで、ゼロカーボン宣言をした町としての推進事業の一策とし

て、新たな森林吸収源としてグリーンインフラを取り入れた街並を整備していくことを提案する。

一例として、町道東67号線をゼロカーボン通りとし環境に配慮したアーチを設置する。歩道に緑地を設け、街路樹を植樹しCO<sub>2</sub>を吸収する道路とする。そして町民、町内企業等が協力したくなる、来町した方々に感心して貰える街並みに整備してはどうか。

グリーンインフラを取り入れることで、森林吸収源としてCO<sub>2</sub>を吸収する役割のほか平常時には生活圏に整備された新たな緑が増えることで町民の癒しの場や憩いの場となりまた観光資源となることも考えられる。

非常時には地域そして町民を守る機能とし

て防災、減災の効果が発揮されることが期待できる。

緑豊かな街並みに整備していくことで、多くの方々から賛同が得られるとともに意識の向上にも繋がり、目標達成に向け取り組みがより一層活発化するとともに、将来の町民の健康で文化的な生活の確保に寄与されることが期待できると思うが町長の考えを伺う。

**町長** 町のゼロカーボンビジョンでは町内の森林の吸収源効果として年間1万トンのCO<sub>2</sub>吸収効果を見込んでおり、2040年までに町内で排出される年間のCO<sub>2</sub>量を1万トまで削減することで、この森林吸収源分と相殺されゼロカーボンを達成することとしている。

提案の町道東67号線は電線共同溝の整備をしており、街路樹等の設置スペースが無い。そして熊町など今後整備する区間は現在用地買収を進めており街路樹設置には追加買収が必要となるため、街路樹の設置は難しい状況と考える。



CO<sub>2</sub>を吸収する緑豊かな街並で癒しの場に

水の貯留や町の景観など、様々な観点から有効な取り組みであると認識している。

今後、下野上地区を含め、道路整備、まちづくりに関しては、町民の方々の賛同が得られるゼロカーボン事業の取り組みとして、周辺の環境整備との調和を考慮しながら、グリーンインフラ導入を積極的に検討していく。

渡辺 誠議員



**問 避難指示解除後に速やかにバスの運行を**

**答 増便やバス停の増設で利便性向上を図る**



避難指示解除によって運行区域も広がります

**渡辺** 大野駅周辺の野上、野上地区を中心とした特定復興再生拠点区域が今春、避難指示解除を迎える。

この区域では住宅を新築、改築、これから建設予定の方をはじめ移住を見込んでのアパートの修繕工事が急ピッチで行われている。このため、この区域

内にも解除後速やかに生活循環バスを運行すべきではないか。

町長の所見を伺う。

**町長** 避難指示が解除されれば、区域内に住まれる方や訪問される方が今後増えることが想定される。

そのため、運行車両の追加および増便を検討

討しており、大野駅と大川原地区との間のルートで改正およびバス停の増設を実施し、利便性の向上を図りたい。利用者の事前の周知が必要なので、7月1日からを想定している。

**再質問**

**渡辺** 野上地区にも運行されるものと思っ

ているがいかがか。

もおられる。公共施設の場所を考慮して検討していく。また一度決めたならそのままということではなく、フレキシブルに対応していく。

**問 免許返納者に電動カー購入の補助を**

**答 対象となる高齢者の条件を検討し判断**

**渡辺** 先ごろ町内で地域の手軽な移動の足となるマイクロモビリティ体験試乗会が実施された。体験を通し自身電動カーに対する認識を新たにしました。

そこで、後を絶たない高齢ドライバーの交通事故が取りざたされている中で、運転免許を返納した高齢者が新たな足として、免許がなくても乗れる電動カーを購入する際、購入

費用の一部を町として補助する制度を設けたらどうか。

運転免許の返納を迷っている人を後押しする材料にもなるのではないか。

町長の所見を伺う。

とができる。

介護保険制度との調整や運転免許証をもともと持っていない方々、電動カーを利用することが危険な方なども考慮し、対象となる高齢者の条件をどうするか検討しなければならぬ。

**町長** 電動カーは介護保険制度のサービスの一つで、基本的には要介護2以上で歩行困難な場合に、福祉用具としてレンタルするこ

とを判断していきたい。

そのうえで、電動カー購入補助制度の整備を判断していきたい。

仲野

剛議員



## 問 震災前と同じようなサービスが必要

## 答 パークゴルフ場の検討を始めたい

施設整備

**仲野** 現在町内での生活が始まり、今後も居住される方が増えることが予想される。以前の大熊町には野球場、体育館、パークゴルフなど、多くの施設が整い充実したサービスを利用していた。帰町した今、震災前と同じような行政サービスを維持していく事が必要であると考える。

これからの施設は住民の交流、健康維持だけでなく有事の際の避難所としても有効である。町内の施設整備について町長の考えを伺う。

**町長** 震災前、町には多種多様な施設が整っており、充実したサービスを提供していた。これらの施設により、町民の皆様は生きがいや楽しみを見つけ、健康で文化的な暮らしを送ることができていた。駅前整備をはじめとし、町民のニーズも高いパークゴルフについても検討を始めたい。人生の豊かさを感じられるような施設を適時整備していく。

## 問 将来役場は町中心部に戻ると検討してはどうか

## 答 まだ検討する段階にない

**仲野** 町土復興のため、町中心部が解除されるのを待つのではないかと、いち早く解除された大川原に拠点施設を設けたことは正しい判断だったと確信している。しかし10年後20年後と将来を見据えた場合、役場はこの場所でのいいか。町中心部へ戻るべきでないか。

かな山林。位置関係をみて今後の開発は平坦な中心部になるのは明白である。

時期や場所については、住民の意見を聞きながら検討していくべきで、まずは計画することが必要ではないか。町長の考えを伺う。

大野駅周辺の開発が進んでいく。その後に必要なのは人流であり、まさにその役割を果たすのが役場を含む公共施設である。窓から外を見れば、南は100メートルで隣町、西は自然豊



公共施設は町の中心部へ

**町長** 今後大野駅を中心としたエリアの整備を進めることにより、町は復興を加速し大きく変わっていく。この避難指示解除を踏まえて、令和4年度に新たに第三次復興計画を策定し、今後10年の復興に対応していく方針である。

この第三次復興計画へ役場の移転を盛り込むことは、まだ検討する段階にはない。現状では大川原、下野上の両拠点を活かしながら大川原に役場を置いておくことが最良である。

\*その他の質問は大熊町ホームページにある町議会録画中継をご覧ください。

千葉 幸生 議員



## 問 帰町希望者には最大限の配慮をすべき

## 答 個別のニーズは町とまちづくり公社で対応する

**千葉** 中間貯蔵施設に汚染土壌が搬入されてから約7年が経過した。

中間貯蔵施設エリアに住民票のある方々には国・県・町の要請により、先祖から引き継いだ土地や建物の譲渡または地上権設定に合意していただき、その建設にご協力いただきたい。

中間貯蔵施設建設の受け入れについては、当時の町長や執行部および町議会が、地権者の皆さんや町民と懇談をし、苦渋の決断をした。その中で、地権者の方々から口頭ではあるが「先祖の土地を失っても大熊町で暮らしたいので土地をなんとか確保できないか」という要望を受けた。それに対し前町長は「最大限の配慮をするのは当然のことである」と回答した事実があり、その約束を果たすべき

と考えている。

そこで次の事項について町長の考えを伺う。

1. 帰町意向の調査結果で「戻りたい」と考えている「または「まだ判断がつかない」と回答した町民の中で中間貯蔵施設エリアの夫沢、小入野、熊川地区の町民は何世帯あったのか。

2. 中間貯蔵施設エリアに居住していた町民が特定復興再生拠点区域内や区域外にオーダーメイドで土地を要望している場合、何らかの形で町は最大限の配慮をするべきと考えるが、所見を伺う。

3. 中間貯蔵施設エリア内に住民票のある町民と将来の生活や居住地について個別または行政区毎に要望や意見を聞く機会が必要と考えるが、その機会を設けるつもりがあるのか。

**町長**

1. 昨年11月の住民意向調査では夫沢、小入野、熊川地区の町民で「戻りたい」または「判断がつかない」と回答した世帯は147世帯である。このうち「自宅以外の場所に1戸建ての持ち家を建てたい」と回答した世帯は41世帯である。

2. 町としては、現在下野上地区に整備を進めている住宅団地は、ご協力いただいた世帯を優先して住宅地の提供をすることを検討している。また、協力いただいた世帯の宅地の広さは様々であることから、複数の区画を提供することも検討している。

3. 中間貯蔵施設エリアの町民の皆様の個別ニーズへの対応は、町とまちづくり公社で対応していく。



フレコンバッグの下は素敵な田んぼでした(熊川地区)

\*再質問、再々質問は大熊町ホームページにある町議会録画中継をご覧ください。

# 新たな交通手段 導入を計画

1月27日委員会を開催し、所管事務調査を行いました。  
主な内容をお知らせします。

## 町内交通の検討状況

町内での生活環境の向上に資するため、手軽な移動手段としてマイクロモビリティの導入を計画している。

下野上地区復興拠点の整備にあわせ直近3か年を短期、人口4000人を想定する5年

後を中長期として目標を設定した。

将来に向け、町民の交通手段を充実させたことの説明がありました。

委員からは、導入後改善点があればフォローアップをすべきとの意見がありました。



手軽な移動手段

※マイクロモビリティは移動性が高く、地域の手軽な移動の足となる一人または二人乗り程度の車両

# 災害時に早期情報共有ができるよう努めるべき

1月25日委員会を開催し、所管事務調査を行いました。  
主な内容をお知らせします。

## 防災アプリ活用

災害時迅速に情報共有ができるよう消防団専用防災アプリ「SAFE(セーフ)」の導入を検討中である。町内で発生した火災現場を地図上に表示させたり、それらの情報を団員に通知することもできる。また、消防水利を登録することにより位置や使用状況も確認でき、団員の出勤可否についても管理できるため、よりスムーズな対応が可能と考えているとの説明がありました。

## 農地保全管理

農業復興組合が実施している農地保全作業について、避難指示解除から3年が経過する中屋敷、大川原地区は営農再開支援事業の通常メニューから除外となる。そのため、10万円あたり1万2000円に減額にはなるが、特別認定事業として継続できるよう県と協議中であるとの説明がありました。

委員からは、農地の荒廃防止の観点から保全管理は継続するべきとの意見がありました。

委員からは、全町民が使用できるような町独自の防災システム構築も検討すべきとの意見がありました。

# 県外最終処分に向けた事業計画を示せ

1月18日と2月21日全員協議会にて環境省より令和4年度の間貯蔵施設事業計画と各課より施策について説明がありました。説明要旨と主な質疑について報告します。

## 中間貯蔵施設

令和4年度も地域の皆様のご理解をいただきながら、次の5つの項目を立てて事業を実施してまいります。

《輸送》安全な輸送を確保し、立地町に配慮した計画的な輸送を実施してまいります。

《用地》丁寧な説明をしながら施設整備の進捗状況、除去土壌の発生状況に応じて必要な用地取得を行います。

《施設》土壌貯蔵が終了した施設は安全性を確保し、維持管理を着実に実施します。廃棄物関連施設については、安全に稼働させ有効に活用します。

## 《再生利用・最終処分》

地元のご理解をいただきながら技術開発や実証事業を実施し、再生利用先の具体化を推進します。県外最終処分に関し、全国に向けて理化学成活動を推進し検討を進めます。

《情報発信》環境再生に向けた取り組みや地元への思いなどを発信するためさらなる方策について検討を行ってまいります。

## 主な質疑の内容

**問** 県外への最終処分完了は2045年だが、完遂するため逆算した計画を事業計画に示すべきではないか。

**答** 見える形を心がけながら事業を進めていきたい。

## 賑わい創出

URが県立大野病院の駐車場に建設していた監督員事務所、通称くまプレがオープンしました。写真。

町としてこの施設を活用して駅西口エリアの各種施設が整備されるまで、商業環境の市場調査やエリア内移動の利便性を確保するための実証実験的な取り組みを考えています。

実施時期は令和4年度から産業交流施設や商業施設が開所する令和6年度までを想定しています。

## 主な質疑の内容

**問** 場所的に県立大野病院の再開を進めて行

くうで妨げにならないのか。

**答** 駐車場の一角なので再開できないということには当然ならぬだろうし、影響はないものと考えている。



## インキュベーション

活動内容は3つあり、1つはイベント。2つ目は起業家コミュニティ。3つ目はインキュベーションプログラムです。

起業家同士が自分たちの技術や理念などを話し合いながらマッチ

ングするようなイベントや、地元住民との交流会を定期的に開催していきます。

起業家とその支援組織の交流、学生向けの起業家育成プログラム、技術を事業化していくためのプログラムなどを準備して支援していきたいと考えています。

## 主な質疑の内容

**問** 入居した会員が形になり起業家として動き始めるには、どのくらいの期間を要するのか。

**答** 一企業が巣立つまで3年から5年くらいかかるのがインキュベーションだが、現在の入居希望者はおよそ2年で町内に進出したい意向である。

# 2022ふたばワールド 今年も双葉町で開催



絆を深めるために

令和4年第1回双葉地方広域市町村圏組合議会定例会が開催され、5議案を審議し原案通り可決しました。  
新年度予算を30億873万円と定め、その中から主な内容をお知らせします。

**ふたばワールド**  
**5392万円**

避難している住民の交流の場を創出し、ふるさとふたばの絆を繋ぎ、復興に向けた意識の高揚を図るためのイベントです。  
今年も双葉町で開催予定です。

郡立診療所管理運営委託  
郡内での帰還困難区域のパトロールによる火災発見時の初期消火、急病等に対する応急処置の実施を目的とする事業です。

**郡立診療所管理運営委託**  
**1億4612万円**

勿来、好間に設置している郡立診療所の今年度の運営費です。  
一般社団法人双葉郡医師会へ委託しています。

**斎場費**  
**1463万円**

双葉町で再開した斎場「聖香苑」の施設運転管理委託費です。

**鳥獣処理費**  
**4501万円**

郡内で捕獲した有害鳥獣（イノシシ等）を細菌により分解処理する費用です。

**避難指示区域等警戒パトロール費**  
**2088万円**

郡内の帰還困難区域のパトロールによる火災発見時の初期消火、急病等に対する応急処置の実施を目的とする事業です。

令和4年第1回双葉地方水道企業団議会定例会が開催され、5議案を審議し原案通り可決しました。  
その中から主な内容をお知らせします。

**水道メーター点検委託**  
**7618万円**

帰還困難区域内の熊地区の上水道復旧に備え、宅内漏水を防止するため各家庭の水道メーター手前までの点検などの事業です。

**下野上地区水道整備負担金**  
**1億1421万円**

特定復興再生拠点区域の解除に向けて生活用水を通水するための水道管布設工事負担金です。



生活用水の確保を

# 犠牲者の鎮魂と町の復興を祈って おおくままち3.11のつどい実行有志の会

「おおくままち3.11のつどい実行有志の会」は、3月11日に大熊町役場前広場にて追悼式を開催し、有志の会メンバーや関係者を中心にした折り鶴1000羽を高く掲げたポールからつるし、町内外から集まった約100名の参加者と犠牲者の鎮魂と町の復興を祈りました。午後2時46分には町の消防団のラッパ演奏が披露され、折り鶴を囲んで黙とうを行いました。

有志の会は避難先の町民と大熊在住の町民等で組織され、昨年夏頃から打ち合わせを重ねこの日に向けて準備してきました。

当日は避難先の会津若松市から熊町小学校、大野小学校、大熊中学校の児童生徒8人も参加し、折り鶴を吊り下げる作業に加わり、有志の会のメンバーと交流する場面も。子どもたちの元気な笑顔がこれからの大熊町を明るく照らしてくれているようでした。



町の復興を祈って

代表 松永 秀篤



千羽鶴に祈りを込めて

**傍聴に来てください**

**6月定例会は8日からの予定です**

発行責任者	委員	副委員長	委員長
吉岡健太郎	廣嶋公治	阿部光國	西山英壽
			島原健二
			石井和弘
			渡辺誠
			佐藤照彦

**広報公聴常任委員会**

**編集後記**

震災前の大熊町は「フルーツの香り漂うロマンの里」のキャッチフレーズがあり、梨やキウイフルーツの栽培が盛んでした。

ゴールデンウィーク頃になると町の至るところで農家さんが田植えに精を出す光景が広がりました。

春はヤマメ、夏はアユ、秋はサケが熊川を泳いでいました。

今、町内では特定復興再生拠点区域の避難指示解除に向けた準備が進み、駅前の産業交流施設や商業施設の検討が本格化し、大川原地区では教育施設「学び舎ゆめの森」の建設が始まりました。

梨に代わってイチゴ栽培工場が稼働し、おおくまキウイ再生クラブがキウイフルーツの栽培に取り組んでいる姿は「フルーツの里復活の兆し」にも映ります。

佐藤 照彦